

JEITA

電子情報技術産業協会規格

Standard of Japan Electronics and Information Technology Industries Association

JEITA CP-2318A

放送用音声ファイルフォーマット Audio File Format for Broadcast Use

2010年3月制定

2015年3月改正

作 成

AV&IT 標準化委員会

AV & IT Standardization Committee

発 行

一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

目 次

ページ

まえがき	
1 目的	1
2 適用範囲	1
3 用語及び定義	1
4 データ型	3
5 引用規格	4
6 参考文献及び Web Site	4
7 規格	4
7.1 構成	4
7.2 基本ファイルフォーマット	4
7.3 メタデータの日本語対応	5
7.3.1 ubxt (Universal broadcast audio extension) チャンク	5
7.3.2 bext チャンク	7
7.3.3 ファイル名	7
7.4 BC\$ラベルによる放送運用データの取り扱い	7
7.4.1 その他のチャンク	8
7.4.2 BC\$ラベル	10
7.4.3 メタデータの埋め込み・添付	11
解説	12
1 この規格の推奨ファイル構造	12
2 BC\$ラベルの解説	13
3 BC\$ラベルの運用例	15
4 審議委員	17

まえがき

この規格は、一般社団法人 電子情報技術産業協会（**JEITA**）AV&IT 標準化委員会のプロ対応デジタルオーディオ標準化グループが **JEITA TSC-16**（電子情報技術産業協会規格類の作成基準）の様式によって作成したものである。

この規格は、著作権法によって保護されている著作物であるため、許可なくこの規格の一部又はすべてを複製・転載することを禁止する。

この規格は、この規格の一部が、工業所有権（特許権、実用新案権、意匠権など）に抵触する可能性に関係なく制定されている。一般社団法人 電子情報技術産業協会は、このような工業所有権に係る確認について、責任はもたない。

電子情報技術産業協会規格

放送用音声ファイルフォーマット

Audio File Format for Broadcast Use

1 目的

この規格は、放送局において業務用に使用される音声ファイルのフォーマットを規定し、かつ、プロ用標準規格となっている AES 規格 AES31-2^[1]との整合性も図り、使用者に便ならしめることを目的とする。また、ここで定義されたラベル名 (BC\$***) を利用することで、放送業務に必要な機器の制御を可能とすることも目的とする。

2 適用範囲

この規格は、放送局の内外を問わず、放送用の目的をもって音声プログラムを非圧縮リニア PCM ファイルとして録音/編集/交換する場合に、その音声ファイルと付随するメタデータに適用する。完成番組か編集用素材かを問わず、異なるシステムや機器間で音声ファイルを受け渡しする場合にはこの規格を適用する。

この規格では非圧縮リニア PCM ファイルのみを対象とし、各種の圧縮音声ファイルは適用外とする。

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語の定義は次による。

3.1

AES

Audio Engineering Society, Inc の略語。

3.2

EBU

European Broadcasting Union の略語。

3.3

SMPTE

Society of Motion Picture and Television Engineers の略語。

3.4

JPPA

Japan Post Production Association (一般社団法人 日本ポストプロダクション協会) の略語。

3.5

BWF

Broadcast Wave Format の略語。EBU で策定した放送用音声ファイルフォーマット。

3.6

BWFF

Broadcast Wave Format File の略語。AES で策定した bext チャンクを含んだ WAVE ファイル。

3.7

BWF-J

JPPA BWF-J ワーキング・グループが BWF を基に機能拡張を行った WAVE ファイル。